

スタジアムを含めた鹿児島市のまちづくりに関する確認事項について

1 グランドデザインとの整合性について

- (1) 多機能複合化により、Jリーグの試合がない日でも日常的に多くの人で賑わうスタジアム稼働率については、施設全体の稼働でグランドデザインの開発コンセプトとの整合性を捉えていただきたい。

(参考)複合化の部分を含めたスタジアムの稼働日数（主な施設を抜粋）

施設の種類		稼働日数	集客数予測	備考
ピッチ・スタンド	スポーツ利用	83日／年	223,363人／年	(中位予測)
	スポーツ以外	71日／年	65,310人／年	大規模イベント等
	合計	154日／年	288,673人／年	
飲食施設		300日／年	30,000人／年(※)	※試合・大規模イベント開催日の利用を除く。
物販施設		300日／年	45,000人／年(※)	
展望テラス・デッキ サードプレイス(※)		通年開放	244,550人／年	※誰でも自由に立ち入りできる開放的な空間

出典：スタジアム需要予測等調査・整備検討支援業務 中間報告（P. 6）

(2) 観光交流拠点としてのスタジアム

県全体の情報発信や観光案内の機能を備えたスタジアムは、かごしま水族館や国際クルーズ船、錦江湾内クルーズ船等と連携を図りながら、本港区エリアにおける観光交流拠点としての機能を発揮することが期待される。

▼スタジアムの複合化で望まれる機能

①観光交流拠点機能

観光案内拠点／ミュージアム／物販／サードプレイス

- ・ 離島など県全体の魅力発信拠点（県全体の情報発信／県内各自治体や観光協会等との連携）
- ・ 試合観戦やイベント等での来場者を観光客として県内各地の観光地に送客する観光案内拠点
- ・ 歩いて楽しめるまちづくりの拠点
- ・ 鹿児島のスポーツレガシー／レジェンドに触れられるミュージアム

②食文化発信機能

飲食／観光案内拠点／物販

- ・ 鹿児島の食材・食文化に触れることができるカフェレストランバー（ケータリング対応）
- ・ 中心市街地の飲食店をはじめ、県内各地の飲食店に関する情報の発信
- ・ 鹿児島の食材を活かした特産品・伝統工芸品の販売

出典：スタジアム需要予測等調査・整備検討支援業務 中間報告（P. 8）

(3) スタジアムの複合化に対する国の考え方

「観るスポーツ」のためのスタジアム・アリーナは、定期的に数千人、数万人の人々を集める集客施設であり、飲食、宿泊、観光等周辺産業へ経済波及効果や雇用創出効果を生み出す地域活性化の起爆剤となる潜在力の高い基盤施設である。

出典：スタジアム・アリーナ改革指針（スポーツ庁 H28年11月16日）

(4) スタジアムに対するJリーグの考え方

多機能複合型ならば、年間を通して市民生活と接点を保ち、スポーツ以外で稼働率を高めて施設全体の収益を上げることができる。また、周囲の施設と複合的な関係を持つこともできる。

- ・「ホーム」の感情を共有し、他者とつながる社交場
- ・中心市街地の新たな求心力

出典：Jリーグニュース特別版「スタジアムの未来」（2022年4月12日時点 編集・発行：公益社団法人 日本プロサッカーリーグ）

2 中心市街地への効果について

(1) スタジアム開業後の消費支出等

内容	金額
来場者による消費（※）	41.9億円～42.2億円
鹿児島県全体への経済波及効果	63.2億円～63.6億円
中心市街地への経済波及効果	12.7億円～12.8億円

出典：スタジアム需要予測等調査・整備検討支援業務 中間報告（P. 12）

※ 市内観光消費を含む全体の消費額

【参考】かごしま錦江湾サマーナイト大花火大会の経済波及効果（R4.10調査）

観覧者数7万人（日帰り・無料宿泊：65,000人、有料宿泊：5,000人）

1人当たり支出額 4,522円～41,500円

経済波及効果額 6億6,673万円

(2) 中間報告で寄せられた回遊性に関する企業等からの意見

- ・スタジアムに向けて高揚感を持って歩きたくなるような動線の設定や周辺のまちづくりも重要である。
- ・試合前後の消費を促すために、スタジアム周辺あるいは天文館エリアも含めた一体的な利用を検討する方がよい。

出典：スタジアム需要予測等調査・整備検討支援業務 中間報告（P. 7）

(3) サッカー等スタジアム整備検討協議会からの提言（H31.1月）

県市や経済団体等で構成する「サッカー等スタジアム整備検討協議会」から次のような提言がなされた。

「スタジアムがもたらす集客性や収益性を最大限に活用するためには、天文館など中心市街地との回遊性が高いことは重要な点であり、これにより、まちの新たな賑わいや、県内外からの交流人口の拡大による地域活性化につながり、鹿児島市の将来の発展に資することになる。」

出典：サッカー等スタジアム立地に関する報告書（H31.1月）

(4) 第二次かごしま都市マスタープランにおける考え方

◆基本目標3 にぎわいと活力のある都市

○基本方針2 居心地がよく歩いて楽しい個性と魅力ある都市空間の創出

- ・道路空間を活用したオープンカフェなどの設置を促進する方策を検討します。
- ・にぎわいや潤いが共存する都市空間を創出するため、公共空間の利活用を検討します。

○基本方針3 稼ぐ観光都市の実現

- ・本港区エリアでは、いづろ・天文館地区などとの連携が図られた拠点の形成を図ります。

出典：第二次かごしま都市マスタープラン（R4.3月）

(5) Jリーグの考え方

・千人単位のアウェイファン・サポーターも、試合の前後は「観光客」。スタジアムへのアクセスは徒歩が中心となり、観客が長く滞留する街の仕掛けがあれば、中心市街地に大きな経済効果をもたらす。

出典：Jリーグニュース特別版「スタジアムの未来」（2022年4月12日時点 編集・発行：公益社団法人 日本プロサッカーリーグ）

(6) シンクタンク調査資料

Jリーグの試合開催日に、札幌ドームと繁華街の両方を訪れる人数が最も多くなるというデータがある。

参考）札幌ドームとすすきのとの併用者数（平均値）

ジャンル	併用者数（人）
Jリーグ	49,106
プロ野球	34,327
音楽	29,679
非開催日	28,108

Jリーグ > プロ野球 > 音楽 > 非開催日

出所：株式会社クロスロケーションズ「Location AI Platform」から抽出データをもとに総合研究所株式会社集計。2019年8月平均併用者数のデイリー推移を抽出。

Jリーグは、データからも観客が試合開始前に早めに来場している可能性や、試合終了後にすすきの周辺に移動している観客数が多くなっている可能性

出典：「スポーツ・音楽・文化芸術等交流人口型イベント（集客エンタメ産業）の社会的価値」共同研究報告書 P. 21（R4.5月：ぴあ株式会社グループ及び株式会社日本政策投資銀行（D B J）グループ作成）